

平成25年6月23日(日) 日本を美しくする会

第196回 益田掃除に学ぶ会 お掃除通信

開催場所 益田東中学校 校長 坂田 仁志

参加者数 53名 教頭 寺戸 淳

1、代表世話人挨拶 山崎純
昨日富士山が世界遺産に登録されました。皆さんは富士山に登ったことがありますか。富士山は本当にいい山です。日本には世界遺産に登録されている場所が17箇所ありますが、近くでは宮島、大森銀山昨年カンボジアのアンコールワットに行きました。素晴らしいところで、やはり残していく必要がありますし、みんなできれいに守っていくことが大切です学校も同じで、きれいさを引き継いでいくことが大事です。今日はそんな気持ちで掃除をしましょう
2、体験感想発表
1・吉岡 奈穂さん(東中3年生)
最初は一時間の掃除は長いと思っていましたがやってみると時間が早くたって、きれいになってよかったです
2・長岡 雄大さん(東中3年生)
最初は少し嫌でしたが、やっているうちに途中から楽しくなりました
3・寺戸 淳さん(東中教頭先生)
皆がトイレをきれいに使ってくれていて嬉しいと思います。最初にお話があったように大切に使うきれいにすれば後輩たちも、またきれいに使ってくれると思います。今日はありがとうございました。
4・日高 夏希さん(東中2年生)
とてもいい経験ができてよかったです

2、体験感想発表
5・石田 綸さん(東中1年生)
トイレがきれいになってよかったです
6・上田 荘太郎さん(東中3年生)
今朝は最悪な気分でしたが、楽しいいい経験になりました
7・渋谷 盛考さん(益田市・千曲ダイドー)
最初は抵抗がありましたが、きれいになって良かったです。きれいになったから皆できれいに使いましょう
8・藤井 史義さん(東中教諭)
使う頻度によって汚れが違うことが分りました。こうして折角皆で掃除をして、沢山の参加があったので使い方の意識を変えて欲しいし、皆にも呼びかけてください
9・竹本 壮太郎さん(東中3年生)
重労働で大変でしたが、終わってとても感動しました。今後の人生でもこんな感動することは多分ないと思います。とてもいい経験ができたと思います
10・牛尾 隆之さん(益田市)
ここまでのトイレ掃除は初めてでしたが、汚れが落とせなかった悔しさが、今後の仕事に活かせると思います
11・川上 恭生さん(東中教諭)
真白にすることが気持ちいいかを感じることが出来ます。全てきれいにしてやろうという気持ちが湧き出しました。
3、ご案内
毎月松江・出雲、下関、岩国、宇部、萩の月例会のご案内を頂いております。
ご参加のご希望がございましたら、お問い合わせ下さい。事務局 岡崎 慎

4、鍵山秀三郎相談役のお言葉
日本人の美德を持ち続ける(正しく生きるより)
なぜ、昔の日本人は誉められたか。それは特別に優れた才能があるという事ではありません。誠実である。正直であるという美德を誉められたのです。日本人の美德の中でも特に際立っていたのが「忍耐力」です。そして「謙虚である」ということ。強い自己主張をせず、周囲に調和し、いざという時には一庶民に至るまで強い勇気を持っていました。しかし、この「美德」は必ずしも一生涯持ち続けられるものとは限りません。時には悪徳に変わることもあります。例えば、揺るぎない忍耐力をもっていれば、たいていのことを我慢できますが、すぐに崩れるような忍耐力では我慢がし切れずに怨恨のもとになる恨みに変わってしまいます。キレて人を殺してしまう凶悪な犯罪は、こういうところから起きています。謙虚であり続けられればいいのですが、壊れると卑屈になってしまいます。最近、テレビでお詫びをする番組が多くなりました。私には、その姿が心からお詫びしているようにはみえません。「しょうがないな」「ばれてしまったから」と頭を下げている姿は、とても卑屈に見えます。謙虚でなく謙遜でもなく調和が徹底できなければ、妥協になります。勇気が粗暴に変わります。昔の人たちは、なぜ美德を持ち続けることができたのでしょうか。そのもとは、あらゆるものに対する「愛」です。これが根底に揺るぎなく流れていると、美德が悪徳に変わらず、美德のままであり続けることができます。しかし「愛」が土台にないと忍耐は簡単に怨恨の源に変わり「謙譲」は卑屈になり、「調和」は妥協に変わり「勇気」は粗暴になります。かつての日本人が誉められた美德とは、何に対しても「愛」と「思いやり」があったことです。中略
5、森信三先生の教え 人間の本懐 (終身教授録より)
実際人生は二度とないですからね。人生は、ただ一回のマラソン競争みたいなものです。勝敗の決は一生にただ一回人生の終わりにあるだけです。しかしマラソン競争と考えている間は、まだ心にゆりみが出ます。人生が、五十メートルの短距離競争だと分つてくると人間の凄みが加わってくるようです。人間も自分の肉体の死後、なお多少でも国家社会のお役に立つことができたら、まずは人間と生まれてきた本懐というものでしょう